

聴覚障害が生活に及ぼす影響

博士補聴器

人格形成への影響

人によっては、聴覚障害者は依存性が有り、衝動的で、偏屈で、懐疑的で、というように社会性が乏しいと簡単に決めつけられることがあります。実際には、これらの人格形成要素のほとんどは、周りの人（家族や、友人、先生など）の聴覚障害への受容能力と、言語によるコミュニケーション能力に原因があることがわかります。

もし、聴覚障害者の生活が孤立し、環境を圧迫された場合、自然とネガティブな人格が出てくる可能性が高くなるといえるでしょう。

逆に、聴覚障害者への受容能力の高い環境にすんでいる場合、彼らは人との交流から、成長し、学ぶことが出来るでしょう。

言語によるコミュニケーション能力の影響

	聴力	聴取能力	口語能力	リハビリ手段
軽度難聴	25~55dB	音に近づいたり音を大きくするとはっきりとしてくる	正常者と同等な場合が多い	補聴器+聴能訓練
中等度難聴	55~69dB	150cm以上離れたところからの音が聞こえにくい	場合によって喋れない場合も有る	補聴器+聴能訓練+読唇訓練
高度難聴	70~90dB	耳元で大きな声でも聞き取りにくい	補聴器を身につけている場合に比較的明確に聞こえる	補聴器+聴能訓練+読唇訓練+手話+筆談
重度難聴	90dB以上	多くの音に無反応	個人差があり、訓練と練習に依存する	補聴器(または人工内耳等)+聴能訓練+手話+筆談

※難聴の分類は様々な分類が有り、その一例です。